

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

観て、撮って、いつでも誰でもアートを楽しめる街づくり事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

宮城県石巻市

3 地域再生計画の区域

宮城県石巻市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

- (1) 震災からの復興と持続的な地域振興を目的に「Reborn-Art Festival」を開催し、2017年から計3回の本祭実施で延べ922,426人の来場者があり、関係人口・交流人口の獲得には一定の成果があったと考えられるが、期間限定のイベントベースでの開催であることからスポット的な成果に留まっている。
- (2) これまで活用していた補助金の性格上、「Reborn-Art Festival」で制作したアート作品は、イベント終了後に撤去、または作家が持ち帰る必要があり、観光資源として継続して活用することができていない。
- (3) 「Reborn-Art Festival」開催期間中は、現代アートのファン層が当市を訪れているが、通年で当市を訪れてもらうためのきっかけ、動機付けが必要である。
- (4) 現代アートについては他の現代アートの芸術祭に関する入場者年齢層を基に分析すると、20代～40代で全体の66.1%を占めている反面、10代については8.6%であることから、現代アートのみではファミリー層や子供たちを惹きつけるコンテンツになっていない。
- (5) 震災からの復旧・復興事業として整備した観光施設や観光コンテンツについて、戦略的な活用や点在していたコンテンツを線で繋ぎ合わせる周遊の仕組みの構築が必要である。
- (6) 外国人延べ宿泊者数について、2022年度は493人で、前年度比で-29.5%と

減少はしており、2022年10月の新型コロナ水際対策の大幅緩和、2023年1月の仙台空港国際定期便の再開などによるインバウンド需要を取り込む新たな戦略的取組の実施が必要である。

(7) 2022年度の観光動態調査（来訪者アンケート）の結果、石巻市の「自然風景・景色」に関して「非常に満足」「やや満足」と回答した者は全体の66.9%で、来訪者には一定程度の評価を得ている反面、「入手できる情報の内容・入手しやすさ」に関しては「非常に満足」「やや満足」と回答した者は全体の3割程度にとどまり、これまでの広報・PR手法を見直し、戦略的な広報・PRとプロモーションが必要である。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

当市は東日本大震災の復興期間の中で、道路や橋梁等のインフラ、石巻南浜津波復興祈念公園や震災遺構等の整備のほか観光施設や観光コンテンツについても整備・復旧を進めてきた。しかし震災復興事業を進める中で生活再建や心のケアを第一優先にしたことから、整備した観光施設の戦略的活用と、線で繋ぎ合わせる周遊の仕組みの構築について遅れが生じている。

また、復興期間においては、ボランティアや被災地支援を主な目的とした関係人口・交流人口を獲得したものの、新型コロナウイルスの蔓延や震災の風化に伴い、継続して関わる機会を欠いており、交流人口・関係人口の再拡大・再獲得に向けた取組が求められている。

加えて大手旅行会社による消費者アンケートや国の統計などをもとに算出された今年の国内旅行需要は、コロナ前の2019年比で9割超という推計値が出ており、円安や国際旅客便の再開等により、急速に回復すると見込まれるインバウンド需要に併せて多くの観光客を取り込むため、他の自治体と差別化した新たな観光戦略が求められている。

そのような中、当市が共催自治体及びメイン会場として関わっている

「Reborn-Art Festival」は、2016年から実施しているアート、食、音楽の総合芸術祭であり、延べ20万～40万人程度の集客を2年に1度の本祭においてもたらしており、国内外の多くの現代アート・食・音楽関係のアーティストが石巻を

訪れ、地域の震災に関係する活動や一次産業とのコラボレーションを通じて新たな価値を生み出し、全国的にも稀有な評価を得ているものである。

このように「Reborn-Art Festival」により、地域に根付きつつあるアートの文化は、地域活性化を図るだけでなく、石巻市のシンボリックなものとして、当市のまちづくりの中核を担う可能性を秘めているものであり、既存の観光資源についても日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」に追加認定された「金華山詣」や「金華山道」など、特色ある観光資源がさらに磨き上げされており、地域のブランド力は着実に成長しつつある状況であることから、これらを有効に活用するとともに、既存資源だけに捉われず、アートを活かした新たな魅力の創出を図ることにより、観光客の増加から地元経済の活性化に繋げ、賑わいが賑わいを呼ぶ好循環を構築することを目指す。

「いつでも誰でもアートを楽しめる街づくり」をコンセプトに、新たな観光コンテンツとして、当市に浸透しつつある現代アートの中でも集客力の起爆剤となるような著名な作家によるシンボリック作品の創作に加え、ファミリー層に人気のあるトリックアートなどにアニメキャラクターや AR 技術を取り入れたアート作品を市内各所に創作。子供から大人まで幅広い世代を取り込める魅力的なアート作品や、金華山をはじめとしたレガシー且つ磨き上げられた既存の観光資源を組み合わせる「アップデートされた石巻」を武器に、観光地として、他の自治体との圧倒的な差別化を目指す。また、誘客メインターゲットを首都圏及び東アジア 4 地域（台湾、中国、香港、韓国）に定め、ツアーの造成と「アートを活かした戦略的プロモーション」により、飲食、宿泊、観光等周辺産業への交流人口・関係人口を増加させ、市内での消費拡大や良好な経済循環を実現する。

【数値目標】

K P I ①	石巻市内における観光関連消費額	単位	億円
K P I ②	石巻市内における観光客数	単位	人
K P I ③	石巻市内における訪日外国人宿泊者数	単位	人
K P I ④	石巻市内における宿泊観光客数	単位	人

	事業開始前 (現時点)	2023 年度 増加分 (1 年目)	2024 年度 増加分 (2 年目)	2025 年度 増加分 (3 年目)	K P I の 増加分累計
K P I ①	318.57	0	14.53	8.72	23.25
K P I ②	4,298,750	0	148,625	89,175	237,800
K P I ③	493	0	1,000	700	1,700
K P I ④	181,999	0	32,901	19,740	52,641

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 の③及び5-3 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進タイプ（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

観て、撮って、いつでも誰でもアートを楽しめる街づくり事業

③ 事業の内容

(1) 現代アートを活用した観光資源造成事業

①世界レベルの現代アート作家の常設展示作品制作設置

「現代アート」「音楽」「食」の総合芸術祭「Reborn-Art Festival」のメイン会場である当市において、世界的に著名な作家による作品を

新たに2作品創作設置し、これを観光資源の新たな目玉として観光誘客の核に据えることで、現代アートのファン層がイベント期間以外でも当市を訪れる動機を作る。

なお、作品を被災地エリア等に設置することにより、アートとダークツーリズムとの相乗効果、震災をきっかけとした関係人口へのアプローチを図る。

②アーティスト・トーク、ワークショップの開催

制作作家による作品制作の舞台裏、コンセプト等を語るトークイベントの開催や市民を対象としたワークショップを企画・立案し実施する。これにより、アートに関する魅力や理解を深め、アートの街としての機運醸成を図る。

(2) アニメとARトリックアートのコラボ事業

①ARトリックアート等企画制作

現代アートとは別に、アニメキャラクター等を活用したARトリックアートを新たな観光資源として、市内の飲食店等事業者の店内外や観光拠点施設に創作する。

また、トリックアートにアニメや特撮キャラクターを活用することで「マンガのまち」としての街づくりを昇華させ、国内外のアニメファンへの訴求や、石ノ森萬画館・石ノ森作品キャラクターのモニュメント等を整備したマンガロード等との相乗的な周遊の仕組み作りを実施する。

②AR技術の活用

観光DXの取組としてトリックアートに組み込まれるAR動画を定期的又はイベントごとに更新し陳腐化を防ぐ。

(3) 広報PR・ツアー造成事業

新たな魅力を造成する「(1)現代アートを活用した観光資源造成事業(ハード事業)」及び「(2)アニメとARトリックアートのコラボ事業」と連携しつつ、磨き上げられた既存の観光資源の魅力とあわせて国内外に対しグローバルに発信し、V字回復の兆しを見せている観光需要を取り込む。

①旅行ガイド情報誌特別編集版の発行

当事業で創作する著名な作家によるシンボルの現代アートや街なかに創作する AR トリックアート、既存の観光資源として更に磨き挙げられた日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」の「金華山詣」、「金華山道」、これらの特集を掲載した石巻旅行ガイド情報誌特別編集版を製作発行し、首都圏をはじめとした書店、JR 主要駅、サービスエリアでの無料配布のほか、宮城県へのインバウンドで最も割合の高い東アジア 4 地域（台湾、中国、香港、韓国）を対象に無料配布を行う。

②ツアー造成

(1) 及び (2) の目玉となるアートを満喫し、既存の観光資源である金華山等を周遊できるモニターツアーを企画する。

評価や改善点等を踏まえ適正価格などを分析し、商品開発にフィードバックするとともに旅行商品として造成する。

③販売プロモーション

メインターゲットを首都圏及び東アジア 4 地域（台湾、中国、香港、韓国）とし、旅行商品の周知広報に関するプロモーションを実施。WEB、SNS 等のオンライン媒体のほか、台湾のメディア・旅行代理店等に直接アプローチし誘客を行う。

④地方創生「すごろくゲームアプリ」強化

当市を舞台にした「すごろくゲームアプリ」内に 1 及び 2 の目玉となるアート作品を登場させることによりゲーム内での PR を行う。

⑤デジタルスタンプラリー

制作したトリックアートや AR トリックアート、既存の観光施設・コンテンツを活用したデジタルスタンプラリーの実施により、市内で観光客が周遊する取組を実施する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

本交付金事業で整備する現代アート（2 作品）は、常設展示作品として当市の観光誘客の目玉としつつ、民間の事業である Reborn-Art

Festival 本祭（2年に1度）の展示作品の一つとして利活用させる予定である（貸出）。維持管理コストについては年間300万程度を見込んでいるが、本祭がある年はReborn-Art Festivalに対する作品の貸付料を当市で実施する保守管理に要する経費に充て、本祭の無い年は本交付金事業により見込まれる観光消費増から波及する税収増により一般財源で賄う。整備した作品を官民で有効に活用し、双方の負担により事業運営を継続していく。

【官民協働】

本交付金事業については「現代アート」「アニメ・AR トリックアート」「広報PR・ツアー造成」という大きく3本の事業により構成されているものである。

現代アートについては芸術祭を2年に1度実施している Reborn-Art Festival と、アニメ・AR トリックアートについてはアートを設置する市内の飲食店等事業者と、広報PR・ツアー造成についてはツアー造成し継続して旅行商品を販売する旅行業者との協働により、それぞれがリスクを負いつつ共通の目的として「誰でもアートを楽しめる街づくり」としての魅力ある石巻を作り上げ、国内外に情報を発信し、飲食、宿泊、観光等周辺産業等への交流人口・関係人口を増加させることにより、市内での消費拡大や良好な経済循環を実現する。

【地域間連携】

石巻圏域定住自立圏共生ビジョンに基づく相互連携

当市と東松島市及び女川町は広域行政事務組合や水道企業団の設置などかねてより広域的な結びつきがあった。そのような中で地域間の課題等を整理の上、互いに連携できる項目を検討し、2010年2月に本市が中心市宣言を行い、同年10月に東松島市及び女川町と「定住自立圏形成協定」を締結、東日本大震災により協議が一旦中断したが、2022年10月7日に「石巻圏域定住自立圏共生ビジョン」の策定に至った。

「石巻圏域定住自立圏共生ビジョン」において、「広域観光の推進」

の分野で「豊かな自然や食などの他圏域にはない独自の地域資源を活かした広域観光」を推進していくことを掲げている。

本事業については、「アートを活かした街づくり」として自走化後、協定締結市町村に対する横展開の可能性を検討し、作品の共同展示やデジタルマップ・スタンプラリーの広域化など、相互連携や拡張性を考慮した広域的な観光振興に繋げることで、石巻圏域としての観光誘客推進へと繋げる。

【政策間連携】

本交付金事業は、主としてアートによる街づくりを実施し、磨き上げられた観光資源による国内外からの観光誘客促進を狙う取組であるが、来訪者の増加・周遊性の向上により観光消費が拡大し、所得の流入は地元商店街の活性化に繋がる。

これは地元経済への大きな波及効果となり、結果として住民所得の向上と新たな雇用が生まれ、若者の定住促進にもつながる。

また、当市の魅力を積極的にプロモーションすることは、観光面のみならず移住者の増加にも高い相乗効果がある。このように本交付金事業は、複数の政策効果の発現を目指す総合的事業となる。

【デジタル社会の形成への寄与】

取組① デジタルマップの制作

イラストマップと GPS が連動するデジタルマップを制作し、創作したアート情報を投影する。

理由①

トリックアートを探しながら楽しく散策できるシステムを構築しつつ、設置されている場所が店舗の場合は営業時間やメニュー等の情報を併せて掲載するとともに、周遊させ、滞在時間を長くする仕掛けとなる。

取組② デジタルスタンプラリーの実施

制作したトリックアートや AR トリックアート、既存の観光施設・コンテンツを活用したデジタルスタンプラリーを実施する。

理由②

地元産品やアニメ・特撮に関する魅力的な景品・特典を設けることにより、アートに興味が無い者であっても得点やゲームに参加することを目的として自発的に参加し、ラリーポイントを巡る効果がある。

スタンプラリーのイベント期間中のみではあるが、新規の客層獲得、周遊促進、滞在時間を延ばす効果が得られ、結果消費活動の増進に繋がる。

また、得られた参加者の年齢層、時期、滞在時間、周遊行動等のデータは、蓄積・分析をしたうえで次のイベントの際の周遊ルート改善や他の施策のPDCA に活かすことができる。

取組③ 地方創生「すごろくゲームアプリ」強化業務

既存事業である当市を舞台にしたすごろくゲームアプリ内（マップなど）に本事業で整備したアート作品を登場させるアップデート・改修を行う。

理由③

市民に向けては、ゲームを通じた郷土理解やアートを活かした街づくりの機運醸成を目指す。

また、市外に対しては、アプリの遊戯により、仮想現実の中で市の魅力を発信し、現実世界での観光誘客を促進する。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度7月

【検証方法】

毎年、各担当課において昨年度の事業実施結果を分析し、KPI 実績、担当課評価、事業内容及び事業を実施した際の改善・効果を高めるための工夫等を記載した評価シート等を作成する。

その後、「石巻市総合計画推進会議」において各担当課から委員に対し当該評価シートを基に説明を行い、委員からの質疑応答等を経た上で、委員からの評価を受ける。

評価結果は、市長を本部長とする庁内組織「石巻市総合計画推進本部」に報告し、各担当課において次年度の事業に反映させる。

【外部組織の参画者】

産（商工会議所、農協等）、学（石巻専修大学、東北大学、東北福祉大学）、金（石巻金融団）、NPO 団体、町内会連合会、地域住民代表ほか

【検証結果の公表の方法】

毎年度、ホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 163,250 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2026 年 3 月 31 日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし。

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2026 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2 の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2 に掲げる目標について、5-2 の⑥の【検証時期】に 7-1 に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2 の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。